

## インパクト投融資に関わる国際イニシアティブの比較

CSRデザイン環境投資顧問株式会社

イニシアティブ名	インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP)	グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN)	国連環境計画金融イニシアティブ (UNEP FI)		国際金融公社 (IFC)	ワールド・ベンチマーキング・アライアンス (WBA)	インパクト・ウェイトド・アカウンツ・イニシアティブ (IWAI)
特にインパクト金融に関する原則や取り組み (領域が広範にわたる場合)	—	—	ポジティブ・インパクト・イニシアティブ (PII) ・ポジティブ・インパクト・マニフェスト (Positive Impact Manifesto) (2015) ・ポジティブ・インパクト金融原則 (Principles for Positive Impact Finance) (2017)	バンキングプログラム ・責任銀行原則 (PRB) (2019年)	インパクト投資に関する運用原則 (Operating Principles for Impact Management) (2019)	—	—
ミッション・概要	IMPは、ESGリスクとポジティブインパクトの測定 (measure)、比較 (compare)、報告 (report) に関するグローバルなコンセンサスを形成するためのフォーラムである。	GIINはインパクト投資に係る世界的リーダーであり、世界規模でのインパクト投資の規模拡大と効率性の向上に専念する。	PIIは「SDG達成に向けたファイナンスのギャップはビジネスモデルのギャップである」というインパクトに関する独自のセオリー (unique theory of impact) に基づき、金融セクターやその他ステークホルダーと協働し、インパクトの分析・管理をビジネスとファイナンスの中心に組み込むことでSDGsへのファイナンスの礎とすることを狙う。	・PRBはサステナブルな銀行システムのためのフレームワークを提供し、銀行業界が社会に対してどのようにポジティブな貢献ができるかを示すものである。 ・この原則により、SDGsやパリ協定で示された社会的目標達成に向けた銀行業界の貢献の推進を目指す。	IFCと本原則署名機関は、インパクト投資に関するより広範な規律と透明性を提供することにより、インパクト投資へのより大きな資本の動員を促し、それらのファンドによる社会的・環境的インパクトを増大させることを目指す。	WBAは、サステナブルな将来に向けたビジネスの測定 (measure) と動機づけ (incentivise) のためのムーブメントを作ることを目指す。(その手法としてのベンチマークやインデックスの開発・発表という位置づけ。)	IWAIの使命は企業の財務的(financial)、社会的 (social)、環境的 (environmental) パフォーマンスを反映する財務会計 (financial accounts) の作成を推進することである。
創立・開始年	2016	2009	2017	2019	2019	2015	2019
主催・中心的組織	英NPO Bridges Insights (ファシリテーターとして) ※Bridges Fund Management傘下の非営利セクター	—	共同議長・運営委員会 (下記参照)	コアグループ30行 (下段参照)	—	・AVIVA、Index Initiative (蘭NPO)、UN Foundation (創立パートナーとして) ・英国国際開発省、デンマーク外務省、オランダ外務省、AVIVA財団からの資金提供	ハーバード大学ビジネススクール George Serafeim教授
署名・賛同機関	・IMP Practitioner Community : 2,000以上の企業・機関・団体 ・IMP Structured Network : 13機関・団体 (GIIN、GRI、Global Steering Group for Impact Investment (GSG)、IFC、OECD、PRI、SASB、Social Value International (SVI)、UNDP、UNEP FI、UNグローバルコンパクト、WBA、B Lab) ・IMP Advisory Group : UKAID、Bank of America、AXA Investment Managers、BlackRock、KPMG、ドイツ銀行など約20機関。	・メンバー : 300以上の投資会社、金融機関等。(AXA、クレディ・スイス、UBS、ドイツ銀行、J.P.モルガン、モルガン・スタンレー、プルデンシャル、チューリッヒ保険等。日本からは笹川平和財団、社会的投資推進財団等。) ・リードサポーター : 7機関・団体 (プルデンシャル、ロックフェラー財団、フォード財団、海外務貿易省、USAID、UKAID、Omidyar Network)	・参加機関 : 47社 (Federated Hermes (旧Hermes Investment Management)、ABN AMRO、BNP Paribas、ドイツ銀行、KPMG、Vigeo Eiris等。日本からは三井住友トラスト・グループが参加。) ・共同議長 : Federated Hermes、Societe Generale ・運営委員会 : Federated Hermes、ING、Mirova、Societe Generale、Yes Bank	・2019年9月に130行で開始、2020年4月現在、170行を超える ・コアグループ : 30行 (Barclays、BNP Paribas、Citiグループ、Societe Generale等) ・Impact Working Group : 47行が参画、日本からはみずほフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ、三井住友トラスト・グループが参加。	・署名団体 : 91機関・団体 (投資会社、アセットオーナー、開発系金融機関等)。AXA、BlackRock、欧州投資銀行 (EIB)、欧州復興開発銀行、(EBRD)、米州投資公社 (IDB Invest)、UBS等の他、日本からはJICAが署名。 ・オブザーバー : GIIN、IMP	・WBA Allies : 125機関が提携。(ABN AMRO、Allianz、CDP、GRI、ケンブリッジ大学、GIIN、We Mean Businessなどの投資会社、金融機関など。日本からは三菱UFJリサーチ&コンサルティングが提携。)	・パートナー : GSG、IMP
発行しているフレームワークやスタンダード (基準)	インパクトの5側面 (Five dimensions of impact) (2017) ※この5側面の詳細として「15のデータカテゴリー」(15 data categories) を提示。	インパクト投資の特徴 (Core Characteristics of Impact Investing) (2019)	モデル・フレームワーク (Model Frameworks) (資金用途を限定しない銀行ローンのフレームワーク、資金用途を限定する銀行ローンのフレームワーク、不動産投資フレームワーク) (2018)	インパクト分析に関するガイダンス・ドキュメント (Guidance Document on Impact Analysis) (2020)	—	SDGsに関する企業ベンチマーク開発のための7つのシステム変革 (Measuring what matters most: Seven systems transformations for benchmarking companies on the SDGs) (2019)	—
具体的なインパクト分析・管理ツール	・インパクト分類カタログ (Impact Class Catalogue) ・投資インパクトの分類 (Impact Classes of Investment)	・IRIS+	・インパクト・レーダー (Impact Radar) (2018) ・銀行向けポートフォリオインパクト分析ツール (Portfolio Impact Analysis Tool for Banks) (2020) ・(融資先)企業のインパクト分析ツール (Corporate Impact Analysis Tool) (2020)	・Anticipated Impact Measurement and Monitoring (AIMM)システム (2017)	・Climate and Energy Benchmark ・Seafood Stewardship Index ・Digital Inclusion Benchmark などのベンチマーク/インデックス発表	インパクトを考慮した会計基準 [Impact-Weighted Financial Accounts]	
「インパクト」「インパクト投資」等、キーワードの定義	「インパクト」	「インパクト投資」	「ポジティブインパクトビジネス & ファイナンス」	「インパクト分析」	「インパクト投資」	—	「インパクト」
	・「インパクト」とは組織によって引き起こされる変化のことであり、ポジティブなものとネガティブなもの、意図したものと意図せざるものがある、と定義する。 ・そのうえでインパクト投資の4つの主な特徴 ①社会的・環境的インパクトを生み出すという投資家の意図があるとのこの前提に立ち、インパクトの5側面「何を (What)」「誰が (Who)」「どの程度 (How Much)」「企業の貢献度合い (Contribution)」「リスク (Risk)」の5つの側面から把握する必要があるとする。	・「インパクト投資」を「経済的リターンをもたらすと共に、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的なインパクトをもたらす投資である」と定義。 ・そのうえでインパクト投資の4つの主な特徴 ①社会的・環境的インパクトを生み出すという投資家の意図が最重要な要素、②金銭的リターンを期待する投資である、③その金銭的リターンには幅がある「 <u>市場水準未満からリスク調整後の市場平均リターンまで</u> 」、④社会的・環境的インパクトは測定・報告されるべきものである)を示す。	・「ポジティブインパクトビジネス & ファイナンス」とは、持続可能な開発の3つの柱 (pillars) (経済、環境、社会) に与える <u>ネガティブなインパクトを十分に識別、軽減するものにとどまらず</u> 、この柱のうち1つないしはそれ以上にポジティブな貢献を提供するものと定義。 ・この定義は、1.包括的であり (全てのセクター、全てのファイナンスタイプに関連するものである)、2.総合的 (SDGsの核である持続可能な開発に関する3つの柱：経済・環境・社会について <u>ポジティブとネガティブ両方の視点から</u> カバーするものである) なるものであるとする。 ・「ポジティブ・インパクト金融原則」のQ&Aセクションの中で、商業的領域の中で成り立つ「 <u>市場水準ないしはそれ以上のリターンを期待する</u> 」ものであり、コンセッションナリーと同義ではないことを強調。	社会、環境、経済に重大なポジティブ・インパクトとネガティブ・インパクトを及ぼしている状況を銀行が自らで分析し、最大のポジティブ・インパクトをどこで実現し、重大なネガティブ・インパクトをどこで低減することができるかを明確化することを求める。	・GIINでの定義を引用「経済的リターンをもたらすと共に、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的なインパクトをもたらす投資である」。 ・インパクト投資が <u>必ずしも財務的リターンを犠牲にするものではない</u> と補記。	(※インパクト、インパクト投資そのものを直接的に定義する文言はないが、「SDGs達成に向けては民間セクターが極めて重要な役割を担っているが、企業が役割を果たすよう動機づけるためにはインパクトの測定方法の変革が必要である」との記載がある。)	・IMPの「インパクト」の考え方を踏襲。 ・企業は人々と地球環境にポジティブあるいはネガティブなインパクトを及ぼしているため、比較可能あるいは総合的な方法でのインパクトの測定は、資本主義を再考 (reimagine capitalism) する上で必要不可欠であるとする。 ・これらのインパクトについての測定結果は投資家や経営者にとって実行可能な示唆となるため、会計報告書に統合する必要があると主張。
インパクトの分析・管理に関して特に対象とするレベル	企業・ファンド・ポートフォリオ	プロジェクト・企業	プロジェクト・企業・ポートフォリオ	プロジェクト・企業・ポートフォリオ	プロジェクト	企業	企業
特記事項	・2018年9月にIMP Structured Networkを設立しており (上述)、の12機関・団体が参加。インパクトの計測・管理に係る統一基準整備の調整を行っている。 ・インパクトのABC A (Act to avoid harm : 害の回避)、B (Benefit stakeholders : ステークホルダーへの恩恵)、C (Contribute to Solutions : 十分な公共サービスを受けられていない人々の課題解決への貢献) の段階区分を提示する。	—	・インパクトを基盤とした新たなビジネスモデルがSDGsの達成にかかるコストを大幅に削減し、新興国や開発途上国を含めた世界規模での経済やビジネスの課題を解決するとする。このためSDGs達成に向けたポジティブインパクト創出の中に新たなビジネスモデルと収益性を見出すことを目指す。 ・PIの3ステータス (PI、PIトランジション、PIではない) を提示。	—	—	—	GSG、IMPとハーバード・ビジネス・スクールによる調査研究主導型のイニシアティブとして2019年2月に発足。IWAIアドバイザーボードの副議長Clara Barby氏はIMPのチーフエグゼクティブでもある。
URL	<a href="https://impactmanagementproject.com/">https://impactmanagementproject.com/</a>	<a href="https://thegiin.org/">https://thegiin.org/</a>	<a href="https://www.unepfi.org/positive-impact/">https://www.unepfi.org/positive-impact/</a>	<a href="https://www.unepfi.org/banking/bankingprinciples/">https://www.unepfi.org/banking/bankingprinciples/</a>	<a href="https://www.impactprinciples.org/">https://www.impactprinciples.org/</a>	<a href="https://www.worldbenchmarkingalliance.org/">https://www.worldbenchmarkingalliance.org/</a>	<a href="https://www.hbs.edu/impact-weighted-accounts/">https://www.hbs.edu/impact-weighted-accounts/</a>

※その他、PRIが、UNEP FI、The Generation Foundationと共同で「インパクトに関する法的枠組み (A Legal Framework For Impact)」を作成中。受託者責任や持続可能性に対するインパクトを考慮する義務を機関投資家がどのように分析・管理するべきか、機関投資家や大手法律事務所とともに検討し、見解をまとめる作業を行っている。Reference Group